

令和5年1月12日

相生山の自然を守る会

代表 近藤 国夫 様

相生山緑地を考える市民の会

共同代表 福井 清 様

外波山 節子 様

名古屋市長 河村 たかし

公開質問状について（回答）

令和4年12月7日に提出されました表題の件につきまして、別紙のとおり回答いたしますので、よろしく申し上げます。

緑政土木局企画経理課

担当 可児・濱中

電話 972-2453

質問	回答
<p>(1) 相生山緑地において「道路廃止作業が一向に進まない」問題は、名古屋市民一人ひとりが自分のこととして考え、市民自身が決めていく問題であり、行政が決めることではありません。「学術検証懇談会」のメンバーや市の職員が日ごろから地域の人々に接しているとは思えないのですが、行政はどのように「市民の意向」を聴き、何を「市民の意向」として進めようとしているのかその根拠を明確にし、それに係る資料等を市民に公開・提供し、市民と話し合いを進め、市民に判断を求める必要があります。</p>	
<p>① 唐突に出てきた「折衷案作成」の根拠が市民に説明されないままです。この「折衷案作成」のどこが「道路廃止作業」の一環なのか、お答えください。</p> <p>② 折衷案作成が、あたかも「市民の間の対立を無くす」ように書かれていますが、地元では「市民間の対立」が存在しているとは思えません。どのような事実の上にそのような認識にいたったのかを示して下さい。</p> <p>③ 「市民間の対立」が盛んに言及されていますが、問われていることは「相生山緑地を横切る道路の必要性」であり、市民間ではこのことが話し合われていません。「市民の対立」という前に、市民間での相互理解を深めるために何が必要とお考えか、お聞かせください。</p>	<p>弥富相生山線については、平成30年12月の説明会以降も、5回にわたる意見交換会、その他の要望活動等において様々なご意見を頂きました。これらを踏まえ、令和3年3月に開催された弥富相生山線の道路建設に係る学術検証懇談会において、現実的な解として折衷案が必要であるとの意見を頂き、本市としてもその必要性があると判断して、折衷案の検討を進めております。</p>
<p>(2) ここ相生山緑地は、相生山緑地全域に生息する希少種・ヒメボタルに見られるように、相生山の生態系を特徴づける特異な自然環境を有し、市民の財産となっています。</p>	
<p>① この相生山緑地を計画するにあたり、緑地検討会を4回実施しています。市民の中ではどのような意見があり、何を問題とし、その進め方に対する意見等を行政はどのように検討・整理し反映させるのか、これらを具体的にお聞かせください。</p> <p>② 緑地計画するにあたり、この特徴ある相生山の生態系を守るために、何をどのように考えなければいけないとお考えか、具体的にお聞かせください。</p>	<p>令和2年度から令和3年度にかけて行った緑地計画検討会では、「現在の豊かな自然を大事にしたい」、「子供が自然の中で遊べるなど自然とふれあう場として使いたい」、「森の中を散策するなど、人と自然との共生を図りたい」、「今あるものを活用し、整備は最小限にしたい」などのご意見をいただきました。ご意見をふまえ、自然環境に配慮しながら基本計画の策定を進めてまいりたいと考えています。</p>
<p>(3) 現代日本の車を取り巻く環境は、人口減少、生産年齢人口の減少、老人社会、少子化、若者の車離れ、MaaS・CASEに代表される100年に一度の大変革期を迎え、これから先自家用車を所有しなくとも不自由のない社会がやってきます。これらは車の生産台数・保有台数・通行車両の減少を意味します。更には名古屋市の財政にまで大きく影響を及ぼす事象であり、環境への負荷の問題等を含めこれらの再検証が必要とされています。</p>	
<p>① 名古屋市に於いてはこれ以上の新たな道路建設は税金の無駄使いであり、弥富相生山線は即刻廃止にするべきだと私たちは考えますが、どのようにお考えですか、お答えください。</p> <p>② 10年前の学術検証委員会からの報告書(2010年12月9日)では、「弥富相生山線建設中止・構造物撤去時の問題点及び必要となる対策案の一覧」を示していますが、「中止した時の必要となる対策」の検証を道路廃止作業部会では、どのように行ってきたのか、その内容を具体的にお聞かせください。</p> <p>③ 弥富相生山線が「必要な効果・必要な短縮なのか」、「望まれる効果・望まれる短縮なのか」の検証が重要であるとする発言が、「世界のAIOIYAMA検討会議」や「学術検証懇談会」で出されています。これらの検証をどのように進めるのか、具体的にお聞かせください。</p>	<p>弥富相生山線に関しては、都市交通及び周辺環境等について、改めて状況の変化や最新の知見も踏まえ科学的に再検証を行い、これらの成果を踏まえ令和3年3月に弥富相生山線の道路建設に係る学術検証懇談会で議論しました。懇談会では、現実的な解として折衷案が必要であるとの意見を頂き、本市としてもその必要性があると判断して、折衷案の検討を進めております。</p>